

平成23年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第59回総会（平成23年6月23日～25日）
会場：札幌コンベンションセンター
会長：塚本泰司（札幌医科大学医学部泌尿器科）
2. 第58回東日本支部総会（平成23年10月26日～28日）
会場：ホテルメトロポリタン山形、山形テルサ ほか
会長：平潟洋一（東北大学大学院臨床微生物解析治療学）
3. 第59回西日本支部総会（平成23年11月24日～26日）
会場：奈良県新公会堂
会長：喜多英二（奈良県立医科大学細菌学講座）
4. 本年関連国際学会として
第27回国際化学療法学会
（平成23年5月7日～10日・ミラノ）

B) 会務

1. 年度末正会員数 6,318名
年度末賛助会員数 29団体、団体会員数 192団体
2. 平成23年度評議員会、同定期総会は上述の第59回総会時に開催された。
3. 新評議員（平成23年5月～平成24年5月）
東日本支部6名（現在234名）
木村聡一郎（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
嵯峨 知生（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
相良 博典（獨協医科大学越谷病院呼吸器内科）
詫間 隆博（昭和大学医学部臨床感染症学）
藤島清太郎（慶應義塾大学医学部救急医学）
水野 泰孝（東京医科大学病院感染制御部）
西日本支部4名（現在203名）
内田勇二郎（国家公務員共済組合連合会 浜の町病院感染管理部／総合診療科）
関 雅文（大阪大学医学部附属病院感染制御部）
三宅 典子（九州大学大学院医学研究院病態修復内科学分野）
山本 善裕（長崎大学医学部第二内科）

4. 理事会 6 回開催

平成 23 年 4 月、6 月、9 月、10 月、11 月、平成 24 年 2 月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌 (委員長 清田 浩)

- ・編集委員会 6 回開催
- ・編集状況

平成 23 年 第 59 卷 3 号～6 号

一般誌 4 冊 (掲載論文数 23 編)

平成 24 年 第 60 卷 1 号～2 号

一般誌 2 冊 (掲載論文数 9 編)

その他編集中 1 冊

- ・利益相反に関する自己申告および臨床試験登録義務に関して投稿規定を改定した。
- ・学会ホームページをリニューアルした。

2) Journal of Infection and Chemotherapy (委員長 小林芳夫 7 月より松本哲哉)

- ・編集委員会 6 回開催
- ・編集状況

平成 23 年

Vol. 17 No. 2～6 (掲載論文数 123 編)

Supplement 1 (嫌気性菌感染症診断・治療ガイドラインの英訳版)

平成 24 年

Vol. 18 No. 1 (掲載論文数 25 編)

- ・利益相反に関する自己申告および臨床試験登録義務に関して投稿規定を改定した。
- ・JIC Award 受賞

奥田 潤 (京都薬科大学微生物・感染制御学)

「Degradation of interleukin 8 by the serine protease MucD of
Pseudomonas aeruginosa」(Vol.17 No.6 p.782-792)

3) 用語委員会 (委員長 清田 浩)

カスプファンギン酢酸塩およびメトロニダゾールの略語を検討した。また学会ホームページで検索可能な抗菌化学療法オンライン用語集の編集作業を始めた。

4) 電子情報配信誌編集委員会 (主幹 満田年宏)

日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」を毎月発行した。

2. 学術委員会 (委員長 塚本泰司)

- ・認定学術集会 申請 25 件 認定 25 件 (平成 22 年度 申請 26 件、認定 26 件)
- ・学術奨励賞受賞者

第 59 回総会

庄 武彦 (産業医科大学医学部 泌尿器科学教室)

「K.oxytoca 外膜蛋白とカルバペネム系抗菌薬 5 薬剤に対する感受性の検討」

小林加直 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 腎泌尿器科学)

「直腸内キノロン耐性大腸菌の同定と経直腸的前立腺針生検時における適切な予防抗菌化学療法選択」

日本化学療法学会雑誌

安田 満 (岐阜大学医学部附属病院 泌尿器科)

「Levofloxacin 500 mg 1 日 1 回投与の尿路性器感染症に対する臨床効果と前立腺組織移行性」

Journal of Infection and Chemotherapy

川崎 聡 (信楽園病院 呼吸器内科)

「Clinical and microbiological evaluation of hemodialysis-associated pneumonia (HDAP): should HDAP be included in healthcare-associated pneumonia?」

3. 学会賞選考委員会 (委員長 公文裕巳)

志賀潔・秦佐八郎記念賞の候補者について検討し選考を行った。

受賞者：西野武志 (京都薬科大学)

研究テーマ：「薬剤耐性菌の耐性機構に関する研究、とくにキノロン耐性および自然耐性機構の解明」

4. 国際渉外委員会 (委員長 松本哲朗)

- 1) 第 27 回国際化学療法学会が、第 25 回ヨーロッパ臨床微生物学会 (ECCMID) と合同で、平成 23 年 5 月 7 日～10 日にイタリア、ミラノで開催された。参加者は、約 1 万人で、日本からも多数参加した。
- 2) ISC-WG 「Device-related infection and Biofilm」 (Chairman; 神谷茂教授 (杏林大学)) の第 1 回国際シンポジウムを平成 23 年 10 月 6 日、北九州市で開催した。参加者は約 200 人であった。
- 3) 第 6 回日本・台湾感染症シンポジウムを、上記同様、平成 23 年 10 月 6 日、北九州市で開催した。
- 4) 第 8 回 ISAAR (International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance) が平成 23 年 4 月 6～8 日に韓国ソウルで開催された。参加者は約 1000 人だが、日本からの参加者は少なかった。
- 5) 第 1 回 SICCMAC (Shanghai International Congress of Clinical Microbiology and Antimicrobial Chemotherapy) が、平成 23 年 9 月に中国上海で開催された。参加者は約 500 人で、日本からの参加者は理事長のみであった。
- 6) 平成 24 年 3 月に、中国よりの訪問団 (約 30 人) を受け入れ、東京において、セミナーと病院訪問があり、支援を行った。

5. 第 28 回国際化学療法学会準備委員会 (委員長 松本哲朗)

- 1) 平成 23 年 5 月 7 日 組織委員会およびプログラム委員会をイタリア、ミラノにて開催した。

- 2) 第27回国際化学療法学会ならびにその他の国際学会において、プロモーション活動を行った。
- 3) 他学会および各種研究会との共同開催について、各学会および研究会と折衝を行った。

6. 未承認薬検討委員会（委員長 三鴨廣繁）

- 1) 和文誌第59巻6号に「スルバクタム/アンピシリンの1日用量に関するアンケート調査結果」を委員会報告として掲載した。
- 2) 和文誌第60巻2号に「注射用シプロフロキサシンの高用量投与の必要性に関するアンケート調査結果報告」を委員会報告として掲載した。
- 3) 和文誌第60巻2号に「メロペネムの1日用量に関するアンケート調査結果」を委員会報告として掲載した。

7. PK-PD 検討委員会（委員長 岩田 敏）

- 1) 平成23年9月12日に厚生労働省および医薬品医療機器総合機構とPK-PD ガイダンスに対する意見交換を行った。
- 2) 平成23年10月31日および12月12日開催の委員会では、先に行われた意見交換を踏まえ、本ガイダンスを修正し、再度、厚生労働省に提出した。

8. 抗菌薬感受性試験微量液体希釈法検討委員会（委員長 山口恵三）

委員会報告「インフルエンザ桿菌に対する微量液体希釈法培地の問題点ー日本化学療法学会法馬溶血液添加培地とCLSI法HTM培地の比較ー」の英訳版がJIC18(1)に掲載された。

9. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 三鴨廣繁）

- 1) 指導者制度講習会開催（年3回：42、43回、44回）
 - 第59回日本化学療法学会総会：平成23年6月25日（札幌）
 - 第58回東日本支部総会：平成23年10月26日（山形）
 - 第59回西日本支部総会：平成23年年11月25日（奈良）
- 2) 抗菌薬臨床試験指導医・指導者および認定医、認定者の新規申請および認定作業を行った。

10. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 三笠桂一）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
 - 第18回 平成23年6月23日 札幌コンベンションセンター
 - 第19回 平成23年9月3日 東京国際フォーラム
 - 第20回 平成23年10月26日 山形テルサ
 - 第21回 平成23年11月24日 奈良県新公会堂
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー
 - 東京：平成23年11月6日（日）日内会館
 - 神戸：平成23年11月20日（日）神戸大学
 - 札幌：平成24年1月29日（日）札幌医科大学記念ホール

福岡：平成 24 年 3 月 18 日（日）九州大学医学部百年講堂

- ・委員会を数回開催した
- ・指導医・認定医・認定歯科医の認定申請受付
- ・認定者 指導医：15 名 認定医：83 名 認定歯科医師：18 名
- ・第 1 回抗菌化学療法指導医試験を平成 23 年 12 月 4 日（日）に実施した。
- ・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト改訂版について、委員に執筆を依頼した。

11. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 竹末芳生）

- ・認定薬剤師講習会の開催
 - 第 5 回 平成 23 年 6 月 17 日 広島国際会議場
 - 第 6 回 平成 23 年 9 月 30 日 神戸国際展示場
- ・認定薬剤師試験実施
 - 問題を作成し、試験問題作成ワーキングでブラッシュアップを行った。
 - 試験は平成 24 年 1 月 29 日に東京慈恵会医科大学中央講堂で行い、申請者 101 名のうち 90 名が合格した。合格者は 3 月 1 日付けで認定薬剤師として認定された。

12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 渡辺 彰）

1. 第 1 回（2009 年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（4 回目・684 株）

成績を *Journal of Infection and Chemotherapy*(JIC) に投稿した。
 - 2) 単純性膀胱炎（369 株）、尿道炎（*N. gonorrhoeae* 84 株、*C. trachomatis* 19 株）の論文執筆。
2. 第 2 回（2010 年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（5 回目）

33 施設より収集した 955 株について感受性を測定。成績を ICC（4 月）、日本化学療法学会総会（6 月）、日本臨床微生物学会（2012 年 1 月）で報告した。
 - 2) 手術部位感染（SSI）

24 施設より収集した 698 株について感受性を測定。成績を ICAAC（9 月）、日本化学療法学会総会（6 月）、日本外科感染症学会（12 月）、日本臨床微生物学会（2012 年 1 月）で報告し、論文執筆中。
3. 第 3 回（2011 年）サーベイランス
 - 耳鼻咽喉科領域、複雑性尿路感染症（2 回目）を対象に実施。菌株を収集した。
4. 第 4 回（2012 年）サーベイランス
 - 呼吸器感染症（6 回目）、尿道炎（2 回目）を対象に実施する。施設への説明を終了し、手続きを実施中。
5. 第 5 回（2013 年）サーベイランス
 - 皮膚科領域を対象に実施する計画で実施要綱等を作成中。
6. 賛助会員の要望を踏まえ、新たに皮膚科領域、小児科領域を実施計画に追加した。今後、全 6 領域を一定の間隔で実施する。

13. UTI薬効評価基準見直しのための委員会（委員長 松本哲朗）

「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン」がJIC 17 (4)に掲載された。

14. 抗真菌薬臨床評価委員会（委員長 河野 茂）

学会ホームページに指針を掲載し、パブリックコメントを募集した。寄せられたパブリックコメントに対して委員会を開催し、最終案の作成を行った。

15. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）

- 1) 平成 23 年 9 月 14 日に厚生労働省および医薬品医療機器総合機構と本ガイドラインに対する意見交換を行った。
- 2) 平成 23 年 11 月 25 日開催の委員会では、先に行われた意見交換を踏まえ、総論部分に関しての修正案が提出された。
- 3) 平成 24 年 1 月 21 日開催の委員会では、総論、各論委員の出席のもと、本ガイドラインの最終確認が行われた。

16. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会（委員長 三嶋廣繁）

「嫌気性菌感染症治療のガイドライン」の英訳版を JIC 17 巻 Supplement として発行した。

17. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 渡辺 彰）

- 1) 第 59 回 日本化学療法学会総会（2011 年 6 月 24 日）にて委員会報告を行った。
- 2) 第 3 回症例検討会を実施し、収集された 18 例について検討した。
- 3) 2010 年 6 月に行った第 1 回中国レジオネラワークショップで作成したレジオネラ症の診断法に関する DVD の日本語版を作成し、ホームページに掲載した。
- 4) 学会員を対象とした「菌株譲渡のお願い」を郵送し、レジオネラの治療実態を確認するため、アンケート調査も実施した。

18. 呼吸器感染症における新規抗微生物薬の臨床評価法見直しのための委員会（委員長 河野 茂）

「呼吸器感染症における新規抗菌薬の臨床評価法（第二版）」を完成させ、第 59 回総会（札幌）での報告および学会誌（第 60 巻 1 号）への掲載を行った。本委員会は所期の目的を達成したので終了した。

19. コリスチンの適正使用の指針作成委員会（委員長 二木芳人）

委員会の最終案を作成し、理事会で承認を得た後、パブリックコメントをホームページ上で求めた。

20. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

各執筆領域及びその執筆者を決定し、領域ごとのエクゼクティブ・サマリーを作成し、原案を執筆者とコアメンバーで繰り返し調整した。

21. 感染症治療ガイド作成委員会（委員長 青木信樹）

日本感染症学会と合同で「JAID/JSC 感染症治療ガイド 2011」を作成し、2012年3月30日に共同発行した。

22. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

日本 TDM 学会と合同で「抗菌薬 TDM ガイドライン」を作成することになり、日本 TDM 学会委員との合同委員会を数回開催した。

23. 社会保険委員会（委員長 河合 伸）

体外診断用医薬品の保険申請および肺炎球菌検査について検討した。

24. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

利益相反指針および COI 自己申告の基準について検討を行った。

25. 新公益法人検討委員会（委員長 戸塚恭一）

平成 23 年 4 月 6 日付で公益社団法人への移行が完了した。

26. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

平成 23 年 12 月 認定者 48 名（申請者 48 名）

平成24年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第60回学術集会（平成24年4月26日～27日）
会場：長崎ブリックホール ほか
会長：松本哲朗（産業医科大学泌尿器科）
2. 第59回東日本支部総会（平成24年10月10日～12日）
会場：ホテル日航東京
会長：金子明寛（東海大学医学部外科学系口腔外科）
3. 第60回西日本支部総会（平成24年11月5日～7日）
会場：アクロス福岡
会長：山中 昇（和歌山県立医科大学医学部耳鼻咽喉科）
4. 本年関連国際学会として
第15回アジア・パシフィック臨床微生物感染症学会（旧：西太平洋化学療法感染症学会（平成24年10月25日～28日・北京）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年7回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定
・編集委員会を隔月開催する
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・6冊発刊予定
・編集委員会を隔月開催とする
・JIC賞の選考を行う
- 3) 用語委員会
抗菌化学療法オンライン用語集の編纂に向けて用語の整理を行う。
略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である
- 4) 電子情報配信誌編集委員会
日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」を月1回配信する。

2. 学術委員会

認定学術集会の認定および学術奨励賞を選考する。
海外留学補助制度の選考を行う。

3. 会則検討委員会

規程の変更があれば適宜、対応していく予定である。

4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞の選考を行う。

5. 国際渉外委員会

- 1) 平成24年6月13～16日タイ、バンコクにて、第15回国際感染症学会（ICID）が開催予定であり、日本からの参加を促す。
- 2) 平成24年9月9日～12日、第52回ICAACが米国、サンフランシスコで開催予定、参加を促す。
- 3) 平成24年10月25日～28日第15回アジア・パシフィック臨床微生物感染症学会（APCCMI；旧西太平洋化学療法学会）が中国、北京で開催予定であり、協力する。

6. 第28回国際化学療法学会準備委員会

- 1) 5回/年の準備委員会を開催し、準備状況の把握と共有を行う。
- 2) スポンサー企業の募集を開始し、推進する。
- 3) 3回/年程度の組織委員会及びプログラム委員会を国際学会の開催時に開催する。
- 4) 同時開催学会および研究会との調整を行う。
- 5) 可能な限り、各種国際学会でのプロモーション活動を行う。

7. 未承認薬検討委員会

- 1) 注射用メトロニダゾール適正使用の指針を作成する予定である。
- 2) 高用量クラリスロマイシンの必要性について検討する予定である。
- 3) ピペラシリン製剤の使用実態(処方疾患と投与量)に関するアンケート調査結果をまとめて、委員会報告を作成する予定である。

8. PK-PD 検討委員会

厚生労働省からPK-PDガイダンスについて了解が得られたら公表する予定である。

9. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：45、46回、47回）
第60回日本化学療法学会学術集会：2012年4月26日（長崎）
第59回東日本支部総会：2012年10月10～12日（東京）
第60回西日本支部総会：2012年11月5～7日（福岡）
- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける
- 3) 8月末までに新規申請者の試験を実施する

10. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
 - 第22回 平成24年4月26日 長崎ブリックホール
 - 第23回 平成24年6月2日 東京国際フォーラム
 - 第24回 平成24年10月10日 ホテル日航東京
 - 第25回 平成24年11月 アクロス福岡
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナーを東京、札幌、神戸、奈良、福岡で開催予定
- ・委員会を数回開催予定
- ・1日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・9月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書締め切り
- ・12月 指導医認定試験実施および認定のための作業委員会
- ・平成25年1月1日付けで認定
- ・改訂版の抗菌薬適正使用生涯教育テキストを平成24年度内に発行する予定

11. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・第7回 平成24年6月17日 神戸国際会議場
 - ・第8回 平成24年10月 朱鷺メッセ
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、認定する。

12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1. 第1回（2009年）サーベイランス
単純性膀胱炎、尿道炎の成績を関連学会で報告し、論文を専門誌に投稿する。
2. 第2回（2010年）サーベイランス
呼吸感染症（955株）、手術部位感染（SSI）（698株）の論文を専門誌に投稿する。
3. 第3回（2011年）サーベイランス
耳鼻咽喉科領域、複雑性尿路感染症で収集した菌株の感受性測定結果を関連学会で報告し、論文を専門誌に投稿する。
4. 第4回（2012年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症
10月末までに菌株収集を終了し、感受性測定・解析後、2013年3月に報告書を完成させる。
 - 2) 尿道炎
*N. gonorrhoeae*は菌株収集、感受性測定を完了し、解析を行う。
*C. trachomatis*は2013年10月を目標に菌株を収集する。
5. 第5回（2013年）サーベイランス

皮膚科領域、歯科口腔外科領域の2領域を対象に全国規模のサーベイランス実施する。

13. 抗真菌薬臨床評価委員会

最終案を日本化学療法学会雑誌に掲載する予定である。

14. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

委員会から修正案、パブリックコメントおよび厚生労働省、PMDA からのコメントに対する回答案を提出し、本ガイドラインを公表する予定である。

15. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会

2007年版のガイドライン改訂作業を進める予定である。

16. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- 1) 第60回日本化学療法学会学術集会（2012年4月26日、27日）にて、今まで収集された症例の結果を報告する予定である。
- 2) 2012年6月13日～16日、中国（西安）にて、第2回レジオネラワークショップを開催し、アジア地域におけるレジオネラ症の疫学・診断および抗菌薬療法に関し、情報交換する予定である。
- 3) 今までに収集されたレジオネラ症例検討成績を投稿する予定である。
- 4) 収集されたレジオネラ菌に対し、各種薬剤のMIC、MIECを東邦大学にて測定し、2012年の東日本化学療法学会にて報告する予定である。
- 5) レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査の結果をまとめ、2012年の東日本化学療法学会にて報告する予定である。
- 6) 第3回症例検討会までに検討できなかった29例について、第4回症例検討会で検討する予定である。

17. コリスチンの適正使用の指針作成委員会

第60回学術集会で指針を公表することになり、和文誌に最終版を掲載する予定である。

18. 感染症治療ガイド作成委員会

「JAID/JSC 感染症治療ガイド 2011」の改訂作業を始め、同時にガイドラインの作成を進める。

19. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

エクゼクティブ・サマリーに対応して、解説文の執筆を開始する。初稿の提出は9月下旬を予定し、年明けにパブリックコメントを求める予定である。

20. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

- 1) 第60回日本化学療法学会学術集会において、委員会報告を行う。
- 2) Executive summary と literature review を「委員会報告（日本語）」として当学会と日本 TDM 学会の和雑誌（日本化学療法学会雑誌、TDM 研究）に掲載する。
- 3) 両学会のホームページに Executive summary を掲載する。

4) JIC に委員会報告として投稿する。

21. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

22. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成24年10月31日